

## 人間福祉研究第12号発刊にあたって

木村 敦子  
Atsuko Kimura

広島文教女子大学に人間福祉学科が開設されて13年が経ち、平成26年4月には第15期の新生を迎えます。今年度の冬は、関東地方を中心とする歴史的な大雪とこれに伴う都市機能の麻痺や大規模な雪害など、私たちの自然に対する無力さや驕りを再認識させられました。このような感覚は東日本大震災において十分味わったはずなのですが…。震災からまだ3年。人間の記憶の移ろいやすさが生む怖さといったものに改めて思いを馳せる昨今です。

そのような中、人間福祉学会では皆様の福祉の学びの記憶をより確かで豊かなものとするべく努力をしていきたいと思っています。

平成25年度の人間福祉学会では、卒業生を招き、現場での実践報告をお願いしました。本号にその様子が掲載されています。緊張していたこととは思いますが、堂々と報告される姿に多くの卒業生や在學生、そして私たち教員も元気づけられました。また、報告して下さった卒業生も、発表を通して自らの文教での学びがより確かな、豊かなものになっていることが実感できたようです。

福祉の学びは「これで終わった」ということができない、終わりのない学びであるといえます。しかし今回の実践報告会のように、終わりが無いからこそ時に立ち止まり、ふりかえり、より質の高いものとしていく作業は非常に重要であるように思います。人間福祉学会は今後もこのような活動を継続し、卒業生や在學生、教員の繋がりの中で支えあい寄り添いあいながら、福祉の学びの道とともに歩んでいきたいと考えています。今後ともご協力の程よろしく願いいたします。

さらに本号では、平成25年度をもって人間福祉学科教授を退官された塚村英幸先生の記念講演の内容が収録されています。塚村先生には7年間に渡って本学の教育に尽力していただきました。先生が私たちに伝えていただいた学びの記憶もまた、卒業生や在學生、教員によってさらに確かな、豊かなものとなり、今後大きな花を咲かせることになるでしょう。幸いなことに、在學生や教員からの強い要望もあり、塚村先生は次年度も特任教授として本学科に在籍し、私たちと同じ道をともに歩んでいただくことになっております。

平成24年度卒業生より、「卒業研究」が必修科目

となっています。巻末に平成25年度の論題一覧を掲載しておりますのでご覧ください。本年度は提出と報告会の日程を早めることになりました（提出は9月末、報告会は10月末）。国家試験の受験勉強に集中してもらいたいとの配慮からです。模擬試験も例年以上に数多く実施しました。人間福祉学科での学びを確かな、豊かなものにするという意味では、国家試験合格に向けた学びの支援も重要であると考えています。これら試験に関する情報も含め、卒業生、在學生、大学院生、そして教員にとって、情報発信、実践・研究交流の場として、さらには、生涯学習の拠点として今後も人間福祉学会の組織と活動の充実を図ってまいる所存です。会員の皆様からの学会運営に対する忌憚のない意見をお寄せいただけましたら幸いです。